

無痛分娩は、産科医・麻酔科医・助産師の連携が必要な高度な技術による医療分娩です。クリニックならではの互いの顔も心も見える産科医・麻酔科医・助産師・小児科医の安全を重視したつながりに加え、クリニックならではの妊婦さんとその家族とのつながりも重視したみんなが関わる！（妊婦さんが）自力で産める！MLC新無痛分娩プロジェクトを掲げました。今後も職員一同一丸となり、無痛分娩も一人一人を大事に丁寧に人と人のつながりの医療を通じ家族史を豊かにするというMLCの目的に沿って発展させていきたいと思ひます。



クリニックなんだけど、
麻酔科医の **上杉** です

無痛分娩担当になって1年を越え、予約件数は徐々に増え、ご希望される妊婦さんの多さに驚くばかりです。無痛分娩のご説明の際にはご自身のご希望を積極的にお話して下さる方が多く、お薬を使う上で非常に助けていただくことが多かったように思ひます。この場をお借りしてあらためてお礼申し上げます。



実際に無痛分娩をおこなう上で目指していることは、

1. お産を体験しているという確かな感覚を感じていただくこと
2. そのうえで可能な限り苦痛を取り除くこと
3. 結果的に身体的負担が少なくて済むこと

この一年を過ごす中で意外にも、無痛分娩のお話を丁寧にこなうことがこの3つに非常に役に立つことを実感しております。

無痛分娩をお受けになられる動機は恐怖感が依然トップを占めています。その恐怖の中には「無痛分娩そのもの」も含まれます。ご説明の時に流れや方法について詳しくお話し合いをしておくと、妊婦さんは分娩経過のなかでそのお話を思い出して下さいます。これを実際の感覚として感じていただくことが恐怖の克服につながり、

そして最後はしっかりと、たくましく、ご自身でお産をなさっておられます。

あんなに怖がっておられたのに！これはたとえ帝王切開になった場合でも同じです。当年度も引き続き少しでもお役に立てるよう、努力を続けてまいります。

そして、もっと！
お役に立てるよう

2020年11月より私たち麻酔科医による手術と計画無痛分娩が、月曜～金曜に加え、延長時（陣痛発来時）や緊急時には夜間と土曜も可能になりました。



Web 無痛分娩についてのバックナンバーはホームページからダウンロードできます

こんにちは！

クリニックなんだけど、
麻酔科医の加藤です



2020年4月28日から毎週火曜日と
隔週金曜日(1・3・5週)に勤務させていただいております。
無痛分娩と帝王切開の麻酔を担当させていただきます。

これまでは国立循環器病研究センターで主に心臓麻酔(日齢0日から100歳まで)
に対応しておりましたが、重症症例が多い上に、こわもての心臓外科医と
付き合っていかななくてはならずストレスのせいか、
昔の同僚には「年々性格が尖っていった」と言われるありさまでした…
そんな中、4年前に妻が無痛分娩で第三子を出産しました。
それまでの出産と比べると、苦痛が少なく、出産後の回復も早く、麻酔に感動しておりました。
これまでの医師生活の中で、初めて妻から感謝されました。

その後に妻に「無痛分娩をメインに仕事をして欲しい」と言われるがままに、当院にて働くこととなりました。

当院はこれまでの職場環境とは異なり、信頼できるスタッフと快適に働くことができる環境だと思っています。
誘っていただいた小西院長には感謝しております。

・・・子供が無事に生まれて当たり前で、それ以上にお母様に快適に過ごしていただく・・・

という点では、これまでとは違った難しさがあると思います。
まだまだ至らぬ点があるとは思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。



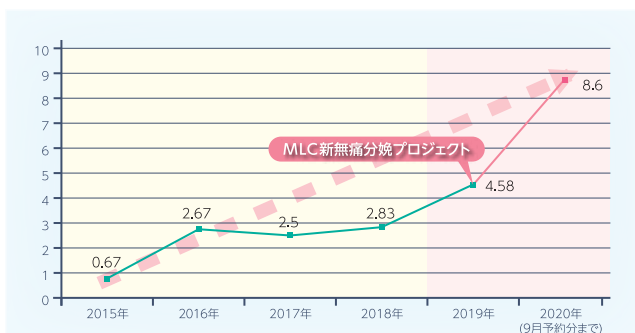
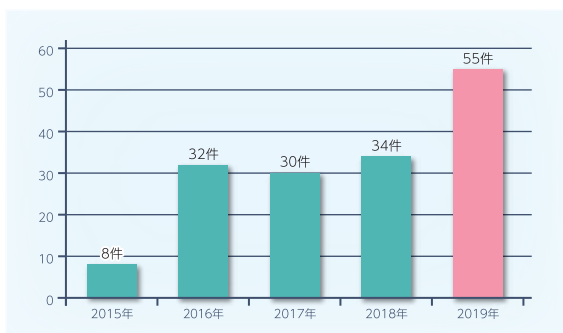
ご一緒に、
無痛分娩のデータあれこれを
見ていきましょう！



1) 無痛分娩数の推移と月平均数

無痛分娩は日本でも着実に増加しています。”お産”は大きな喜びと、そして痛みをともなうイベントです。
この”痛み”を少なくするためのごく普通の選択肢になりつつあるとも言えます。

その中でMLCの新しい無痛分娩プロジェクトでは麻酔科医立ち会い分娩のためにきめ細やかな痛みの管理とで
安全な分娩が提供できています。



麻酔科...無痛分娩あれこれ

vol.15年報/2020.11.1発行

2) 無痛分娩数の実績

2019年MLC新無痛分娩プロジェクト、55名の方々のお産と、
2015年から2018年までの無痛分娩の方々のお産を表にしました。

全体のデータ（通常のお産）とも
比較してみてくださいね。
(本誌12ページから14ページ/分娩統計)

2019

MLC新無痛分娩プロジェクト

	実施数 (総数55名)	吸引分娩	分娩所要時間 ※1	出血量	臍帯血pH	麻酔科分娩 立ち会い率	重大麻酔合併症	産科合併症
初産婦	21名(38%)	43%(9/21)	12時間27分	727ml	7.28	100% ※2	なし	子宮型羊水塞栓 (1例)
経産婦	34名(62%)	32%(11/34)	7時間22分					

※1 参考値として2019年の経産普通分娩での初産婦14時間34分、経産婦7時間14分でした。

無痛分娩は時間がかかるとも言われていますが、当院では初産婦では緊張が緩和された結果か2時間の短縮となりました。

※2 MLC新しい無痛プロジェクトでは夜間・深夜でも必ず感動の瞬間まで、皆様が顔を知る麻酔科医上杉医師・加藤医師が立ち会います。また、分娩には、無痛・自然にかかわらず、分娩中だけでなく産後にも母体急変時があります。新MLC無痛プロジェクトでは麻酔科医完全立ち会いにより、高度な救命救急技術が迅速提供できる体制にしています。

2015-2018

	実施数 (総数104名)	吸引分娩	分娩所要時間	出血量	臍帯血pH	麻酔科分娩 立ち会い率	重大麻酔合併症	産科合併症
初産婦	50名(48%)	52.0%(26/50)	9時間49分	555ml	7.29	28%	くも膜下迷入 (2例) ※3	子宮破裂 (1例) ※4
経産婦	54名(52%)	27.8%(15/54)	6時間54分					

※3 この時期に関西で産婦人科医による無痛分娩での不幸な情動が複数されました。

このような麻酔合併症での対応が、精通した麻酔科医に及ばなかったからです。幸い、MLCでは、当時でも麻酔科医の呼び出しによる早期対応で母児とも元気に出産されました。現在のMLCの新しい無痛プロジェクトでは麻酔科医完全立ち会い(※2)のためにこの合併症が発生してもさらに安全迅速に対応できます。

※4 無痛分娩との因果関係はありませんが、予測不可能な最重篤な分娩合併症でも、新MLC無痛プロジェクトでは麻酔科医完全立ち会いによる高度な救命救急技術を迅速提供できる体制であったので、迅速かつ適切な処置の上で高次医療機関への搬送ができました。



……新しいMLC無痛プロジェクトでの麻酔科医の熱い思い……

夜間・深夜でも必ず出産の感動の瞬間まで、

初めてのご相談や無痛分娩教室でお話した

妊婦さんにとって、

いつもの麻酔科医がずっと立ち会います。



クリニックならではの産科医・麻酔科医・助産師・小児科医の安全を重視したつながりと

麻酔科医分娩立ち会い率100%の無痛分娩



これが、
2019年に始まった
MLC無痛プロジェクト
です

